



平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年11月7日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社丸井グループ
コード番号 8252 URL <http://www.0101maruigroup.co.jp>
代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 青井 浩
問合せ先責任者 (役職名) 財務部長 (氏名) 村井 亮介 (TEL) 03-3384-0101
四半期報告書提出予定日 平成25年11月7日 配当支払開始予定日 平成25年12月4日
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	195,935	1.0	10,716	12.0	11,075	16.1	6,144	63.2
25年3月期第2四半期	193,945	△1.6	9,569	24.1	9,535	29.0	3,765	232.1

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 7,931百万円(155.7%) 25年3月期第2四半期 3,102百万円(△14.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	22.44	22.44
25年3月期第2四半期	13.76	13.75

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第2四半期	650,324	309,796	47.6	1,130.16
25年3月期	624,173	304,051	48.6	1,109.33

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 309,392百万円 25年3月期 303,637百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	7.00	—	8.00	15.00
26年3月期	—	9.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	9.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	413,500	1.5	27,000	11.2	28,000	14.5	16,000	20.7	58.45

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	26年3月期2Q	318,660,417株	25年3月期	318,660,417株
② 期末自己株式数	26年3月期2Q	44,900,169株	25年3月期	44,948,289株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	26年3月期2Q	273,760,604株	25年3月期2Q	273,713,026株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間は、経済政策や日銀の金融緩和などにより景気は緩やかに回復傾向を示し、個人消費にも一部に動きがみられたものの、所得の伸び悩みや物価上昇への警戒感などから消費マインドの本格的な改善にはいたらず、依然として不透明な経営環境が続きました。

このような環境のもと、当社グループは、年代の枠を越えて幅広いお客様にご支持いただけるよう、お客様ニーズに基づきすべての事業の革新をすすめるとともに、「店舗・カード・Web」の三位一体型ビジネスをさらに推進し、経営資源を最大限に活用することで収益力の向上をめざしてまいりました。

この結果、当第2四半期累計期間の連結売上高は1,959億35百万円（前年同期比1.0%増）、営業利益は107億16百万円（同12.0%増）、経常利益は110億75百万円（同16.1%増）、四半期純利益は61億44百万円（同63.2%増）と増収増益となりました。

セグメント別の状況は次のとおりです。

なお、報告セグメントの区分について、第1四半期会計期間より変更しております。

小売事業では、より多くのお客様のご期待にお応えするため、仕入販売の強化とともに店舗の売場賃貸によりカテゴリーの拡大をすすめてまいりました。また、今後の事業展開においても商業施設としての店舗の魅力を最大限に高めて行くうえで、売場賃貸によるテナント導入も積極的に推進してまいります。

一方、前期までの報告セグメントにおきましては、商品の仕入販売については「小売事業」、テナント等の賃貸収入については「小売関連サービス事業」と、一体運営している店舗でありながら損益を2つの区分に分けて計上しておりました。

したがって、事業の実態をより正確に表すため、従来「小売関連サービス事業」に含めておりました商業施設の賃貸および運営管理等に伴う損益を「小売事業」に加え、新たに「小売・店舗事業」として区分し直しております。

この変更に伴い、以下の前年同期比較につきましては、前年の数値を変更後のセグメント区分に組み替えて比較しております。

(小売・店舗事業)

小売・店舗事業では「小売の革新」に取組み、年代を越えて共通するお客様のニーズや価値観にお応えするため、「おしゃれ×共通価値×値ごろ感」を基本コンセプトに、「店舗・カード・Web」を連携させた幅広いサービスの提供をすすめてまいりました。

まず、先行して取組んだ「商品の革新」では、基本コンセプトを具現化した新PB商品の「ラクチン」シリーズが好調に推移いたしました。展開型数の拡大や、お客様のご要望の多い値ごろ感のある品揃えを充実したことに加え、9月には、「大人のキレイは、ラクチンがいいのだ。」をテーマにテレビCMなどで広告宣伝を強化し、「ラクチン」シリーズの知名度の向上をはかりました。この結果、新PBの売上高は52億円、前年同期比92%増と高伸長いたしました。

次に「売場の革新」では、引き続き商品の特徴や機能性などをわかりやすく陳列、演出した売場づくりを推進するとともに、お取引先ショップとも基本コンセプトを共有し、共同開発商品を拡大するなど、すべての売場でお客様ニーズにお応えする品揃えの強化に取組んでまいりました。

また、ネット通販ではシューズの専門サイトを開設いたしました。自宅でご試着いただくために送料・返送料を無料化した「ラクチン便」、コーディネートで選べる検索機能など、お客様のご要望に沿ったサービスを充実いたしました。また、商圏外でのプロモーションが奏功し、Web事業でのシューズの売上高は前年同期に対し1.3倍に伸ばいたしました。

さらに、「店づくりの革新」では、お客様と一緒に店づくりをすすめ、新宿マルイのリニューアルに取組みました。のべ約150名のお客様からご意見を伺い、男女で気軽に楽しめる店をめざして「新宿マルイ 本館」には初めてメンズフロアを導入し、「新宿マルイ メン」では女性にもご利用しやすいギフト雑貨やイベントショップを充実いたしました。

このような施策により、客層の幅が広がったことで既存店のお買上客数は前年同期比5%増と好調に推移しましたが、前期に閉鎖した専門店の影響などにより、売上高は1,540億14百万円（前年同期比2.1%減）となりました。

利益面では、固定費の削減をすすめたものの、積極的なプロモーションによる広告宣伝の増加もあり、営業利益は29億26百万円（同4.3%減）と減益となりました。

（カード事業）

カード事業では、ご利用客数・ご利用額の拡大をすすめてまいりました。

新規入会は、丸井店舗での入会促進に加え、独自の提携カードである「コラボレーションカード」など丸井店舗外での入会が着実に増加したことから、カード会員数は前年同期比8%増の517万人となり、2006年に発行を開始したエポスカードの会員は500万人を突破いたしました。

また、お得意様づくりの取組みでは、ゴールドカード会員の拡大をすすめてまいりました。人気公演や宿泊施設の会員優待、期間限定ポイントなどのサービスの充実により、ゴールドカードの会員数は前期末から15万人増の72万人となりました。

さらに、カード発行の申込書に替わるタブレット端末の導入を丸井全店で完了いたしました。ペーパーレス化により個人情報の管理水準が格段に向上するとともに、入会審査の時間短縮により店頭即時発行が推進され、カード利用率の向上と郵送費等のコスト削減が期待されます。

このような施策により、ご利用客数は前年同期比11%増と2桁伸長し、外部加盟店でのご利用額は27%増と引き続き高伸長いたしました。この結果、リボ・分割払債権残高は1,462億円（前年同期比25%増）に拡大いたしました。

また、キャッシングにつきましては、取扱高が前年同期比13%増の624億円まで拡大したことから、営業貸付金残高は1,237億24百万円（前年同期比1.8%減）と小幅な減少にとどまり、総量規制の影響による減少に底打ちが見えてまいりました。

さらに、家賃保証や銀行ローン保証など関連ビジネスについても順調に推移し、カード事業の売上高は295億49百万円（前年同期比13.4%増）、営業利益は75億68百万円（同18.8%増）と2期連続の増収増益となり、営業債権残高については3,105億円と、過去最高を更新しております。

(小売関連サービス事業)

小売関連サービス事業では、商業施設からの内装工事や広告制作などの受注が拡大したことなどにより、売上高は271億90百万円（前年同期比14.2%増）、営業利益は20億34百万円（同30.2%増）と2期連続の増収増益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期末における総資産は、前期末に比べ261億50百万円増加し6,503億24百万円となりました。これは主に、エポスカードのご利用客数の拡大や加盟店での取扱高の高伸長などにより割賦売掛金が156億9百万円増加したことや、当第2四半期末日において、金融機関休業日の影響で通常の前月末入金の一部が一時的な未収入金となり、流動資産「その他」が104億37百万円増加したことによるものです。

負債合計は、204億5百万円増加し3,405億27百万円となりました。これは主に、上記の未収入金に対応したコマーシャル・ペーパーの発行などで有利子負債が220億7百万円増加したことによるものです。

純資産は、57億44百万円増加し3,097億96百万円となり、自己資本比率は47.6%となりました。

キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益が103億14百万円（前年同期間より39億89百万円増）となったものの、カード事業における営業債権が増加したことなどにより、167億65百万円の支出（前年同期間は53億95百万円の支出）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の取得による支出の増加などにより、22億69百万円の支出（前年同期間は18億42百万円の収入）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、有利子負債の増加による収入などにより、196億32百万円の収入（前年同期間は49億47百万円の収入）となりました。

以上の結果、当第2四半期末の現金及び現金同等物は、305億27百万円となり前期末に比べ5億86百万円増加いたしました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、第2四半期累計期間までの業績を踏まえ、平成25年4月26日の公表から、以下の通り修正いたします。

(連結業績予想)

	前期実績	前回発表予想	今回修正予想	増減額	増減率
	百万円	百万円	百万円	百万円	%
売上高	407,366	413,000	413,500	500	0.1
営業利益	24,285	26,500	27,000	500	1.9
経常利益	24,443	27,000	28,000	1,000	3.7
当期純利益	13,255	16,000	16,000	-	-
1株当たり当期純利益	48.43円	58.46円	58.45円	△ 0.01円	-

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

税金費用の計算については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。ただし、見積実効税率を用いて計算すると著しく合理性を欠く場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	29,951	30,538
受取手形及び売掛金	6,190	5,365
割賦売掛金	171,187	186,797
営業貸付金	123,739	123,724
商品	19,334	19,929
その他	30,590	41,027
貸倒引当金	△8,270	△7,850
流動資産合計	372,725	399,533
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	68,741	68,026
土地	98,886	98,886
その他（純額）	5,421	5,986
有形固定資産合計	173,049	172,899
無形固定資産	6,476	6,376
投資その他の資産		
投資有価証券	22,602	25,138
差入保証金	39,069	37,699
その他	10,250	8,675
投資その他の資産合計	71,922	71,513
固定資産合計	251,448	250,790
資産合計	624,173	650,324

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	28,208	27,136
短期借入金	69,262	62,269
コマーシャル・ペーパー	5,000	27,000
未払法人税等	1,726	4,051
賞与引当金	3,617	4,055
ポイント引当金	1,719	2,197
商品券等引換損失引当金	149	151
その他	23,046	21,792
流動負債合計	132,728	148,654
固定負債		
社債	82,000	102,000
長期借入金	87,500	74,500
利息返還損失引当金	11,158	8,581
その他	6,734	6,791
固定負債合計	187,393	191,873
負債合計	320,121	340,527
純資産の部		
株主資本		
資本金	35,920	35,920
資本剰余金	91,307	91,307
利益剰余金	225,554	229,472
自己株式	△53,889	△53,831
株主資本合計	298,893	302,869
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,744	6,522
その他の包括利益累計額合計	4,744	6,522
新株予約権	25	13
少数株主持分	389	391
純資産合計	304,051	309,796
負債純資産合計	624,173	650,324

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	193,945	195,935
売上原価	122,871	121,889
売上総利益	71,073	74,046
販売費及び一般管理費	61,504	63,329
営業利益	9,569	10,716
営業外収益		
受取利息	73	64
受取配当金	292	278
償却債権回収益	351	508
固定資産受贈益	337	478
その他	172	113
営業外収益合計	1,227	1,443
営業外費用		
支払利息	952	896
その他	308	187
営業外費用合計	1,261	1,084
経常利益	9,535	11,075
特別損失		
固定資産除却損	428	598
店舗閉鎖損失	2	162
固定資産見積変更差額	2,385	—
投資有価証券評価損	330	—
その他	62	—
特別損失合計	3,210	761
税金等調整前四半期純利益	6,324	10,314
法人税等	2,552	4,160
少数株主損益調整前四半期純利益	3,772	6,153
少数株主利益	7	8
四半期純利益	3,765	6,144

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	3,772	6,153
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△670	1,778
その他の包括利益合計	△670	1,778
四半期包括利益	3,102	7,931
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,095	7,922
少数株主に係る四半期包括利益	7	8

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	6,324	10,314
減価償却費	5,393	4,863
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	227	478
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△1,050	△420
利息返還損失引当金の増減額 (△は減少)	△2,914	△2,577
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△302	438
受取利息及び受取配当金	△365	△342
支払利息	952	896
固定資産除却損	341	415
固定資産見積変更差額	2,385	—
投資有価証券評価損益 (△は益)	330	—
売上債権の増減額 (△は増加)	553	824
割賦売掛金の増減額 (△は増加)	△7,767	△15,609
営業貸付金の増減額 (△は増加)	6,254	15
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△49	△639
買掛金の増減額 (△は減少)	△1,643	△1,071
その他	△12,649	△12,283
小計	△3,980	△14,697
利息及び配当金の受取額	315	292
利息の支払額	△1,029	△885
法人税等の支払額	△700	△1,728
法人税等の還付額	—	253
営業活動によるキャッシュ・フロー	△5,395	△16,765
投資活動によるキャッシュ・フロー		
固定資産の取得による支出	△3,090	△4,229
投資有価証券の売却による収入	2,300	—
差入保証金の回収による収入	1,934	2,113
その他	698	△153
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,842	△2,269
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△9,974	△29,992
長期借入れによる収入	10,000	10,000
社債の発行による収入	14,920	19,902
社債の償還による支出	△20,000	—
コマーシャル・ペーパーの純増減額 (△は減少)	12,000	22,000
配当金の支払額	△1,915	△2,189
その他	△83	△88
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,947	19,632
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,395	597
現金及び現金同等物の期首残高	29,928	29,940
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	—	△10
現金及び現金同等物の四半期末残高	31,323	30,527

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	小売・店舗 事業	カード事業	小売関連 サービス事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	154,622	25,005	14,316	193,945	—	193,945
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,744	1,042	9,492	13,278	△13,278	—
計	157,366	26,048	23,808	207,223	△13,278	193,945
セグメント利益	3,057	6,372	1,563	10,993	△1,423	9,569

(注) 1 セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去1,072百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,496百万円です。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない連結財務諸表提出会社の費用です。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	小売・店舗 事業	カード事業	小売関連 サービス事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	151,188	28,506	16,240	195,935	—	195,935
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,826	1,042	10,950	14,819	△14,819	—
計	154,014	29,549	27,190	210,754	△14,819	195,935
セグメント利益	2,926	7,568	2,034	12,530	△1,813	10,716

(注) 1 セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去786百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,600百万円です。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない連結財務諸表提出会社の費用です。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更し、従来「小売関連サービス事業」に含めておりました商業施設の賃貸および運営管理等に伴う損益を「小売事業」に加え、新たに「小売・店舗事業」として区分し直しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき組み替え表示しております。